

日 時 平成16年6月30日(水) 5校時

児 童 第6学年男子14名女子13名 計27名

指導者 和美 智 教

I 単元名 武士の世の中をさぐるう -今に生きる文化と産業-

II 単元について

- 子どもたちは、前単元「大陸に学んだ国づくり」の学習において、聖徳太子の政治や大化の改新、奈良の大仏をつくった目的と当時の人々の様子、鑑真や遣唐使による外国との結びつき、貴族の生活の様子と藤原道長について学んできた。これらの学習を通して、子どもたちは、天皇中心に国がつくられていったことや外国と結びついて国を発展させたり、文化を取り入れたりしてきたことなどについて学んできている。そして、奈良時代の農民の様子や貴族の生活を調べることを通して、当時の人々の生活や身分のちがいについて興味をもち、さまざまな考えをもつことができるようになってきている。

本単元では、武士が力をつけ武士中心の政治が始まったこと、農民が力をつけ様々な文化が生まれたこと、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康による天下統一の様子について理解するとともに、武士や農民の暮らしについても考えさせていきたい。

- 平安時代末期になると、平氏と源氏を中心とした武士が力を強め、武士の世の中をつくっていった。源頼朝は、1192年に鎌倉に幕府を開き、御恩と奉公の関係で武士との間に強いつながりをつくることにより、武士による政治を行っていった。ここから、武士による政治が約700年間も続くことになる。その後、鎌倉幕府の実権は、執権である北条氏が握ったが、北条時宗が執権のときに元軍が侵攻してくる。幕府は武士の奮闘により何とか撃退するが、その元寇により、御恩と奉公の関係が崩れ、鎌倉幕府が滅亡するきっかけとなった。

鎌倉幕府が滅亡した後に、足利尊氏が京都に室町幕府を開いた。室町時代には、時代を代表する建築物として金閣・銀閣が建てられた。また、このころから、畳や障子、ふすまが使われた書院造という建築様式が広まるとともに、茶の湯や生け花、水墨画といった新しい文化が武士と貴族の間で広まった。

また、室町時代は大きな戦乱が起きた世の中でもあった。そのような世の中で農民は、治水を発達させたり、品種改良や肥料の改良をしたりして生産量を高めていった。また、特産品をつくったり、二毛作を行ったりして収入を得ていく。その結果、農民の生活は次第に豊かになり、力を高めていく。力を高めていった農民は、能や狂言・おとぎ草子などの今も人々に親しまれている文化を生んだり、団結して一揆を起し領主に抵抗したりしていった。

戦乱が続く中で、まわりの大名をたおし、力で世の中を治めようとする動きがあらわれてくる。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康は様々な戦術で戦に勝ったりや様々な政策を行ったりして、戦乱の世の中を統一していった。

- 子どもたちは、歴史学習に興味をもち、中でも、時代を代表する人物の業績や、貴族や武士の生活の様子などについての学習に、大変意欲的に取り組んできた。自ら問いをもち積極的に調べたり、調べたことをもとに考えをもったりすることもできるようになってきている。

本単元では、これまでの学習を生かしながら、武士は天皇に代わってどのように政治を進めていったか、どのような暮らしをしていたか、どのような文化が生まれたか、どのように天下統一がなされていたのかなどについて、活躍した人物の業績や人々の思いに注目させながら、自分なりの考えをもたせていきたいと考える。

本時では、農業の変化を調べることを通して、農民の生活が豊かになり、その中で、今も親しまれている文化を生み出したり、団結して一揆を起し領主に抵抗したりする力をつけていったことを理解させたい。このような学習課程の中で、自分の考えをもつ場面を多く取り入れ、当時の農民の様子を考えさせていきたい。

そして、子どもたちがより主体的に追究活動に取り組めるよう、子どもたちの問いを中心に学習を展開するようにしていきたい。そのために、絵図やVTRなどの資料を意図的または子どもたちの求めにより提示していきたい。そして、補助発問を工夫したり、学び合いを設けたりすることにより、どの子どもにも自分の考えをもたせるようにしていきたい。また、書く作業を取り入れ、机間指導で一人一人の考えを認め、その考えをもとにして学習に積極的に参加するように促していきたい。

また、多面的なものの方見方・考え方を育てるために、事象に対して別の角度から考えることのできる場の設定をしていきたい。

III 単元目標

- 1 武士が天皇に代わって政治を進めていく様子に関心をもち、その政治とそのころの文化や人々の暮らしについて、進んで追究しようとする。(関心・意欲・態度)
- 2 武士の時代の政治や文化をこれまでのものと比較してそのちがいを考えたり、それぞれの為政者がとった政策の意味を考え自分なりの評価をしたりすることができる。(社会的思考・判断)
- 3 源頼朝などの武士の政策や、武士による新しい文化について、各種資料を活用して調べたり、調べた過程や結果を目的に応じた方法で表現したりすることができる。(観察資料活用の技能・表現)
- 4 源頼朝と北条時宗による鎌倉幕府の政治、足利義満・義政による室町幕府の政治と文化、天下統一に向けた織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の動きをとらえるとともに、今に伝わる文化や産業が生まれたことを理解することができる。(知識・理解)

IV 指導計画及び評価計画 (13時間)

段階	時数	学習内容	評価規準			
			関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	技能・表現	知識・理解
問題の把握	1	平治の乱の絵図をもとに話し合い、時代背景をとらえるとともに、武士の政治に対する興味・関心を高め、学習問題を設定する。	・これまで学習してきた時代との違いや武士の政治に対する興味関心を持ち、調べていこうとしている。 (発言・ふりかえり)	・武士の政治やそれにもなう社会の変化について学習を進めていく学習問題を設定することができる。 (発言・ノート)	・激しい戦いの様子や鎧に身をまとして戦う人々の様子を絵図から読み取ることができる。 (観察・発言)	
問題の追究	1	武士の館と源頼朝の肖像画をもとに話し合い、鎌倉幕府や武士の暮らしに関する学習問題を設定する。	・源頼朝の肖像画やその業績から、頼朝の人物像についての興味・関心をもつ。 (発言・ふりかえり)		・貴族の寝殿造の屋敷と武士の館とを比較して、そのちがいに気づくことができる。 (ノート・発言)	
	2	源頼朝、鎌倉幕府の政治、武士の生活の様子などについて調べ、理解する。			・各種資料を活用しながら自分のテーマに従って調べることができる。 (観察・ノート)	・調べたり交流したりする中で、武士の生活や将軍と御家人との関係、鎌倉幕府の政治について理解することができる。 (発言・ふりかえり)
	1	元軍との戦いについて調べ、戦いの様子やその後の幕府の衰えについて理解する。		・外国との戦いということで、御恩と奉公の関係がくずれ、鎌倉幕府の衰えの起因になったことに気づくことができる。 (発言・ノート)	・資料から、日本軍と元軍の戦いの仕方や兵器のちがいについて読み取ることができる。 (発言・ノート)	・元が2回にわたって攻めてきたことと、その結果、勝利を得たものの、武士たちの生活は苦しくなり、幕府に不満をもつようになったことを理解することができる。 (発言・ふりかえり)
	1	金閣と銀閣について調べ、足利義満と義正を中寸とした室町幕府の政治や文化の特色をとらえる。	・金閣と銀閣の写真からそのちがいに気づき、それぞれが造られた時代背景について興味・関心をもつ。 (発言・観察)		・資料集や教科書、各自の資料を活用して、それぞれの政治や文化の様子を調べることができる。 (観察・ノート)	・金閣、銀閣が造られたころの政治や文化の様子のちがいについて理解することができる。 (発言・ふりかえり)
	1	農民の暮らしを調べることを通して、農民の力の高まりをとらえる。		・農民から文化が生まれた理由を予想し、話し合うことができる。 (観察・ノート)	・資料集や教科書、各自の資料を活用して、農業技術の様々な進歩を調べることができる。 (発言・ノート)	・農業の発達により、農民が力をつけてきたことを理解することができる。 (発言・ふりかえり)
	5	天下統一への動きを3人の人物(信長・秀吉・家康)を中心に調べ、その様子をとらえる。	・3人の生きた時代に興味・関心を持ち、自分が選んだ人物に対して積極的に調べ、発表している。 (観察・発言・ふりかえり)	・調べたことをもとに、天下統一にむけてのその人物の役割について、自分の考えをもつことができる。 (発言・観察)	・資料集や教科書、各自の資料を活用して、選択した人物の業績や人物像を調べることができる。 (観察・ノート)	・調べたことや討論会から、3人の人物の天下統一にむけての業績を理解することができる。 (発言・ふりかえり)
	まとめ	1	学習してきたことをまとめ、表現する。		・これまで学習したことをふり返り、その人物なりの考え方や自分の学び方について評価することができる。 (発言・作品・ふりかえり)	・「武士の政治物語」を、これまでの学習を想起しながらまとめることができる。 (観察・作品)

V 本時の指導

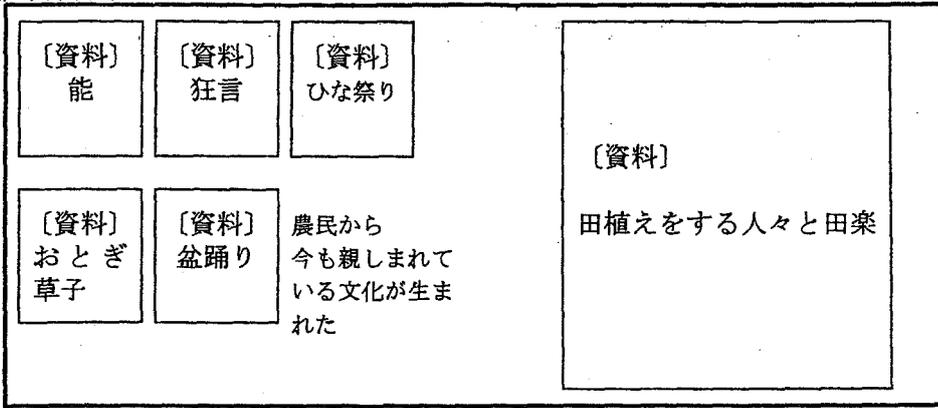
1 ねらい

- ・農民の暮らしを調べることを通して、新しい文化を生んだり、団結して領主に反抗したりするなど農民の力の高まってきたことをとらえることができる。

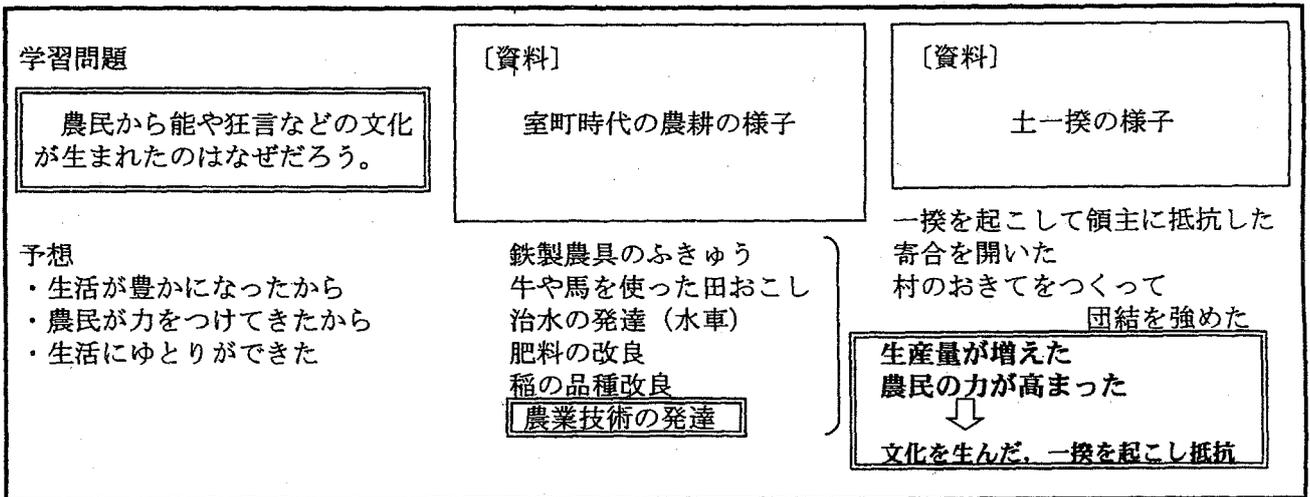
2 展開

隣	学 習 活 動	瞬	支援と評価 (◇: 評価)	学びの環境
問題の把握	1 能のVTRをもとに、本時の学習問題を設定する。 (1)感想を交流する。 (2)能に関する情報を知る (3)学習問題を設定する。	3 3 2	・VTRを視聴した後、感想を自由に話させる。 ・能や狂言はどんな身分の人から生まれたのか考えさせる。 ・能と狂言は、農民から生まれたことを田植えをする人々と田楽の様子の挿絵を提示することでつかませ、学習問題を設定する。	・能のVTR ・田植えをする人々と田楽の様子の挿絵
農民から能や狂言などの文化が生まれたのはなぜだろう。				
問題の追究	2 農民から文化が生まれた理由を予想する。 (1)予想をノートに書く。 (2)予想をし、交流することで考えを深めていく。 3 農業がどのように変わったのか調べる。その後、交流することより理解を深める。 (1)農業がどのように変わったのか調べる。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 鉄製農具の普及 牛や馬を使った田おこし 治水の発達 肥料・品種の改良 </div> (2)調べたことを交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px 0;">農業技術の進歩</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px 0;">生産力の高まり</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px 0;">豊かな生活</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px 0;">新しい文化</div> 4 農民の力が高まったことにより、社会的にどんな変化が起こったのか調べる。 (1)一揆の様子の挿絵をもとに考える。 (2)教科書をもとに調べる。	3 4 5 8 3 4	・今まで学習したことをもとに予想することができるように支援する。 ・予想を交流させ、子どもたちの考えを深めるとともに、予想できなかった子どもにも考えをもたせる。 ・予想を練り上げていくことにより、農業の変化についての観点到絞っていく。 ◇農民から文化が生まれた理由を予想し、話し合うことができる。 【思→ノート・発言】 ・予想の練り上げにより、絞られた観点について調べさせる。そのことにより、どの子にも確実に調べることができるようにする。 ・机間指導をする中で、一人一人調べたことを認める。そのことにより、自信をもって発表できるようにする。 ◇資料集や教科書、各自の資料を活用して、農業技術の様々な進歩を調べることができる。【技→発言・ノート】 ・子どもの発表を、室町時代の農耕の様子を示す挿絵の中で確認する。 ・農業技術が進歩したことにより、農民にはどんな変化があったか考えさせる。 ・農民の生活は以前より豊かになり、農民の力が高まったこと、そのゆとりの中から文化が生まれたことを子どもの考えをもとにおさえる。 ・一揆の様子の挿絵を提示し、何をやっているか考えさせる。そのことにより、農民の生活を別の角度で見ることができるようになる。教科書で、農民が団結して反抗していたことをおさえる。 ◇農業の発達により、農民が力をつけてきたことを理解することができる。 【理→発言・ふりかえり】	・教科書 ・資料集 ・各自の資料 (普段、児童が使用する本や資料を持参させている) ・農耕の様子を示す挿絵(室町時代)
まとめ	5 本時の学習のふりかえりを行う。 (1)ふりかえりをノートに書く。 (2)ふりかえりを発表する。	3 2	・次の観点でふりかえりを書かせる。 ○わかったこと ○思ったこと、考えたこと ○知りたいこと ・数人を指名して発表させることにより、次時の学習への意欲化を図る。	・一揆の様子の挿絵

板書計画



[移動黒板]

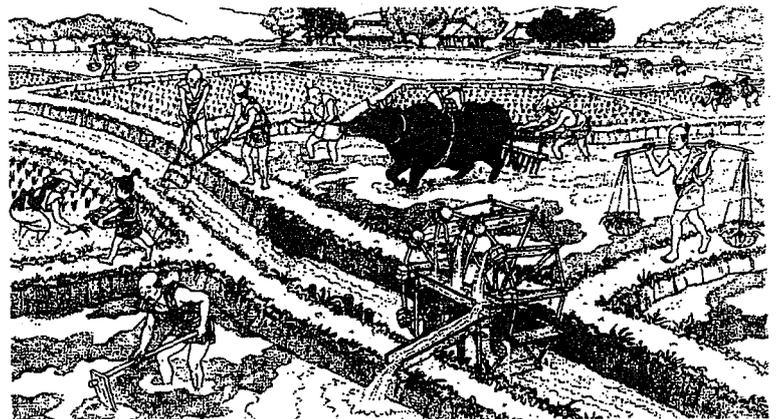


[中央黒板]

中心資料



[田植えをする人々と田楽]



[室町時代の農耕の様子]



[土一揆の様子]